



—東北生産性本部—

第35回仙台シンポジウム22日よりスタート

当本部のシンボリックな事業であり、35回を数える仙台シンポジウムが、今月22日よりスタートする。今回の申込に際しては、なかなか進まない震災復興や地域経済の低迷が漂う中、更には電力関係企業が厳しい経営実態の中で、これまで継続的に申込をされている企業・組合においても今回は遠慮したいという意向も示される等、開催方法を見直した第33回以降、予想された通りの厳しい申込状況であった。

その一方で、毎回魅力的な講師人で楽しみにしているとの言葉も届けられる等、6回例会の通常登録に79名の皆さまより申込を、また、7月・9月・10月の拡大例会には157名の申込を頂いた。多くの皆さまに御礼を申し上げますと共に、混沌とする政治経済社会の中で、皆さまの期待に応えられるシンポジウムとしていきたい。

< 第35回仙台シンポジウムの全容 >

例会（開催日）	テーマ	講師
6月（22日）	2012日本及び世界の経済情勢	第一生命主席エコノミスト 永濱利廣 氏
7月拡大（12日）	震災後の地域経済活性化の方向性	前総務大臣 片山善博 氏
9月拡大（11日）	これからの日本の行方	（財）日本総合研究所理事長 寺島実郎 氏
10月拡大（26日）	大阪都構想から見る行政改革と経営戦略	大阪維新の会政策顧問 上山信一 氏
11月（16日）	国家財政と税財政の本質	元国税庁長官 大武健一郎 氏
12月（13日）	変革する国際情勢と日本の役割	国際政治アナリスト 小川和久 氏

* 全例会とも会場は仙台商工会議所会館7階大会議室、時間帯は14時から15時半です。
7月・9月・10月の拡大例会に参加ご希望の方は、東北生産性本部（022-261-0411）までご連絡下さい。

賛助会員の動向

<平成24年6月12日現在>

賛助会員105

<平成23年度中の動向>

NO	項目	件数
1	賛助会費請求・納入	102
2	賛助会員入会	3(企業3)
3	小計(1・2)	105
4	賛助会員退会	5(企業4・組合1)
5	賛助会費請求見合せ	2(企業2)

<平成24年度の動向(6月12日現在)>

1	賛助会員退会	3(企業3)
2	賛助会員入会	1(組合1)

第一義 ~最後のコラムとなった、多くの人に感謝~

漸く内示がオープンとなり、今月27日までの勤務となった。一昨年の4月26日に当本部に赴任して以来、2年2ヶ月となる。赴任した当時、財政難から仙台商工会議所会館の8階から7階に引っ越して間もない頃で、雑然とした事務所に驚いた。冷蔵庫のドアを開ければドアは外れる、ロッカーはない、名刺はない、端末機はない、あるのは借金だけと、大変なところに来たと唖然とした。沈まぬ太陽の恩地の心境であった あれから2年、あっという間の時間経過であった。組合とは又別に外で仕事が出来たのは、自分にとって何よりの経験であった。そして多くの人に助けられ支えられた。感謝に尽きない。赴任して1ヶ月が経過した頃、お先真っ暗であったが、青木前会長のマジックに掛かった。事業という道に明かりを灯す教祖様のような存在であった。また、中村さんと松原さんにも大変お世話になった。二人は仕事出来る正に職人である。全体を司る様々な制度や管理が陳腐化していたように思う 新たな体制が先月スタートした新会長には経験豊かで県内外に顔の広い東北電力の齋藤常勤顧問、そして専務には競争の激しい業界をリードしてきた東北リコー前専務の山岸さん、常務には宮城県内の労働界に精通した東北電労前宮城県本部委員長の吉田さんである。これ以上ない最強の布陣であり、安心して離れることが出来る 新しい職場において当本部で再確認した生産性向上に欠かせない普遍的且つ大きな要素である人間生産性向上を実践したい。人を大切に、本質論議を大切に、仕事は厳しいからこそ、楽しく、心地良い汗を掻きたい。最後に東北電労には大変お世話になった。東北電力の半分を過ごすこととなる組合は自分のコアである。(記S・S)